



富士市長に日本代表入りの報告をする川崎選手

川崎真裕美選手、世界陸上へ

川崎真裕美さん(門井)が、世界陸上ヘルシンキ大会(開催日 8月6日~14日)女子競歩20キロの部日本代表に選ばれました。川崎さんは6月14日、市役所を訪れ、富士市長に世界陸上出場を報告。「アテネ五輪の反省を踏まえ、きつちりと調整して本番に臨みたいと思います。自分の持つ日本記録(1時間31分19秒)の更新が目標です」と意欲を見せました。競技開始時間は、8月7日午前10時(日本時間7日午前2時)の予定です。

下館北FCジュニアが優勝 茨城放送杯少年サッカー大会



5月15日、第4回茨城放送杯少年サッカー大会の決勝トーナメントが県立カシマサッカースタジアムで行われ、下館北FCジュニアが2年ぶり2度目の優勝。参加48チームの頂点に輝きました。下館北FCジュニアは、中小学校と河間小学校のサッカースポーツ少年団でつくる合同チーム。主将の柴山聖司くん(河間小6年)は、「がんばれば必ず勝てると思って戦いました。優勝できてうれしいです」。

小林さんが大賞を受賞 国際バラとガーデニングショウ



5月に埼玉県で開かれた『第7回国際バラとガーデニングショウ』で、小林幸子さん(57歳・森添島)の切花部門の作品が見事、大賞に輝きました。小林さんは、他の2部門でも最優秀賞を獲得。夫の宣雄さんの作品4点も入賞しています。「大賞に選ばれるなんて夢のよう。この日のために大切に育てたので、嬉しいです。今後は、故郷にちなんだ名前のバラを作って、市内に広げていきたいですね」。

暮らしを考え、まちを知りたい、みんなの広場

- 日本におけるドイツ年記念『ケーテ・コルヴィッツ展』
7月16日(土)～8月21日(日)まで
月曜休館(7/18は開館、7/19は休館)
茨城県つくば美術館〔つくば市TEL029(856)3711〕
入場料=一般380円 高大生280円 小中生180円
- 拡大常設展『笠間芸術の森陶芸展 カサマソダチ』
7月2日(土)～8月28日(日)まで
月曜休館(7/18は開館、7/19は休館)
茨城県陶芸美術館〔笠間市TEL0296(70)0011〕
入場料=一般300円 高大生250円 小中生150円
- 杉山清貴 弾き語りツアー-2005
7月22日(金) 午後6時30分開演
茨城県立県民文化センター〔水戸市TEL029(241)1166〕
入場料=全席指定5,250円(当日券5,500円)
- レニングラード国立バレエ ムソルグスキー記念

- 7月21日(木) 午後7時開演
下妻市民文化会館〔下妻市TEL0296(43)2118〕
入場料=一般3,000円 高校生以下2,000円
- グランディーババレエ団
7月31日(日) 午後5時開演
茨城県立県民文化センター〔水戸市TEL029(241)1166〕
入場料=S席8,000円 A席7,000円
- ダモイ～収容所(ラーゲリ)から来た遺書～
8月19日(金) 午後7時開演
栃木県総合文化センター〔宇都宮市TEL028(643)1010〕
入場料=全席指定3,000円
- かわせみ座人形劇『まほろばのこだま』
9月19日(祝) 午後5時開演
栃木県総合文化センター〔宇都宮市TEL028(643)1010〕
入場料=一般2,500円 高校生以下1,000円

わが家のアイドル

1歳のお誕生おめでとう



なかじま かとで
中島 楓葉ちゃん
7月1日生(二木成)



くらもち かとで
倉持 楓ちゃん
7月2日生(東石田)



おらは ななみ
奥原 菜々美ちゃん
7月3日生(二木成)



たなか まさお
田中 理夫くん
7月7日生(大町)



さかい ひろと
坂入 大翔くん
7月8日生(赤浜)



どうめ き いっけい
百目鬼 一慶くん
7月8日生(森添島)



やまぐち みなみ
山崎 美南ちゃん
7月8日生(深見)



こすげ なつみ
小菅 夏希くん
7月10日生(辻)



はまよし りょう
濱吉 涼くん
7月14日生(一本松)



いりえ ともや
入江 智也くん
7月17日生(嘉家佐和)



きくち けんや
菊池 肯也くん
7月17日生(西方)



よしだ はる
吉田 遥くん
7月17日生(下川島)



おの たくみ
大野 拓海くん
7月18日生(市野辺)



ひらやま ひろと
平山 大夢くん
7月19日生(下野殿)



おおくぼ りょうき
大久保 瑠輝也くん
7月21日生(樋口)



いずみた はると
和泉田 明杜くん
7月22日生(玉戸)



さとう ゆうた
佐藤 祐太くん
7月23日生(玉戸)



さとう しゅんじ
佐藤 駿哉くん
7月24日生(竹垣)



わた けいすけ
和田 啓祐くん
7月24日生(関本中)



やまなか けんじ
山中 賢人くん
7月25日生(南町)



しょうげんじ はな
正根寺 花ちゃん
7月27日生(南町)



いなば あやか
稲葉 彩夏ちゃん
7月28日生(藤ヶ谷)



なかやま りょうま
中山 龍馬くん
7月28日生(直井)



いちむら はるあき
市村 遥輝くん
7月31日生(榎生)

6年生が描くわたしの夢、このまちの未来。

古里小学校



たさき ひろえ
田崎 浩恵

お客さんからも犬からも信頼されるドッグトレーナーになりたい。自然いっぱい、緑が輝くまちにしたいな。



しもじょう けん と
下奈 健人

お菓子工場で働き、子どもたちの喜ぶお菓子を作ってあげたい。安全に暮らせる、今のままの筑西市がいいな。



ふじぬま りか
藤沼 里佳

保育士になり、小さい子に楽しい思い出を作つてあげたい。誰でもあいさつを交わせる楽しいまちにしたい。



よしはら けん た
吉原 憲太

福留選手のようにバツティングのうまいプロ野球選手になりたい。事故がなく、安全で住み良いまちにしたい。



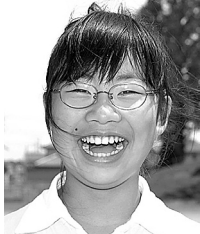
かめ た あや か
亀田 彩香

ピアニストになって、たくさんの人に音楽を聴いてもらいたい。筑西市のみんなと仲良く交流できたらいいな。



いの せ りょうすけ
猪瀬 亮佑

巨人の工藤投手のような、みんなの目標となるピッチャーになりたい。ごみのない、きれいなまちにしたいな。



おざわ あや の
小澤 彩乃

姉妹で美容室を開き、お客さんを似合う髪型にしてあげたい。住んでいる人の心もきれいなまちを作りたい。



うめ い よし あき
梅井 禎瑛

メジャーでも活躍できるようなプロ野球選手になりたい。事故や事件がなく、安全で信頼できるまちにしたい。



ほり え まい こ
堀江 真衣子

高橋尚子みたいなマラソン選手になり、メダルを取りたい。空気がおいしくて、豊かに暮らせるまちにしたい。



おお やま ひろ たか
大山 寛隆

古生物学者になり、恐竜の生態をもっと明らかにしたい。川島小のあいさつ運動を筑西市中に広げていきたい。

川島小学校

日ごろ暮らしの中で思っていることを投稿してください。匿名可。市広報広聴課へ。

3月、下館市・関城町・明野町・協和町が合併した。さて、合併するとどんないいことがあるのか。パンフレット（筑西市建設計画ダイジェスト版）によると、効率的に都市機能を充実でき、質の高いサービスが提供され、財政基盤を強化、1市3町の資源を相乗的に生かせるそう。なんだか難しい言葉ばかり、と思っていた4月。広報紙と一緒に、300円の特別優待券が付いた、しもだて美術館のチラシが届いた。きつと今までは下館市民だけに配られていたのだろう。美術館には何度か行ったが、こんなものがあると知らなかった。なるほどこれも合併したおかげか。この他、きつと私が知らないところでも、今まで使えなかった施設が使えたりと、合併の効果があらわれているのだろう。せっかく合併したのだから、10年、20年たって、合併して良かったと思えるようなまちをつくりたいものだ。
(匿名・男)

筑西市になって、
ちよっぴり良かったこと

おたより

美と健康のために、 初めてのヨガ

6月17日、明野武道館で、明野公民館主催のヨガ講座（講師＝大町美智子さん）を開催しました。集まった講座生45人は、初めて体験するヨガに悪戦苦闘。参加者のひとり「ポーズをとるのは難しかったけれど、リフレッシュできました」。



ふじ た かつ よし
藤田 積善さん（古郡）

ホタルのエサとなるカワニナ（貝類）などの生育状況を観察する

「ふじ た かつ よし」の感想する姿を今でも忘れられず、本当に嬉しかった。もっと多くの子どもたちに体験させてあげたいと思います」と、無数の光が舞う幻想的な光景を、今に再現したいと夢を描いています。

昨年からは自宅敷地内に設けた水路でホタルを育て始めました。羽化したホタルの幼虫（来年、成虫になる）は7月中旬に近くの水路に放流する予定です。

今年は涼しい夜が続いたので、昨年幼虫を放流したゲンジホタルが見られるのは7月初旬になるそうです。



ひと

『光舞う幻想の世界』を今に ホタルの里づくりに黙々と挑む

国指定史跡になっている『新治廃寺』
周辺が荒れているのに心を痛め、ホタルが舞う昔の自然を取り戻そうと、藤田積善さん（84歳）は、15年前からホタルの里づくりに取り組んできました。

「私たちが子どもの頃は、毎晩のように夏の夜空にホタルの舞う姿を目のあたりにしたものでした。数匹捕まえては麦ワラで作った手づくりの籠かごに入れて家の中に持ち込み、蚊帳かまどの中で楽しんでたものでした。知人から譲り受けた

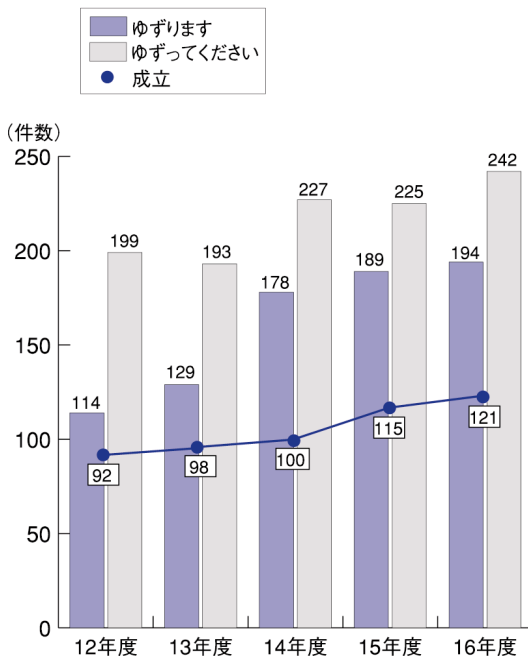
ゲンジホタルの幼虫を、久地楽の『ふるさとの森自然公園』周辺や蓬田の用水路などに放流してきました。その甲斐あって7年前に初めてホタルが見つかり、その後も毎年、少しずつ増え、ホタルが舞う姿が見られるようになりました。依頼を受け、子どもたちにホタルの幼虫の放流を体験させたり、親子での見学会なども行いました。夜空にホタルの舞う姿を初めて見た子どもたちは大喜びで、その時の子どもたちの感激する姿を今でも忘れられ

不用品は、捨てずにリサイクル情報センターへ

■下館消費者友の会

『リサイクル』——この言葉を日々の暮らしの中で耳にしないことはありません。わが家の息子たちも、飲み終えたジュースやお茶の缶、ペットボトルは、ごく当たり前のようリサイクル分別収集に出しています。そんな暮らしの中で、環境のことを考え、少しでも物を無駄にしないようにと活動しているボランティア団体があります。『不用品活用リサイクル情報センター』を運営している、『下館消費者友の会』の皆さんにお話を伺いました。

不用品活用リサイクル情報センター
年度別取り扱い件数



物を譲り合う活動を市民にも

昭和49年、子孫を守るために安く安全な物を購入できたらと願う仲間たちが集い、『下館消費者友の会』を設立。食品添加物を使わない味噌や醤油、粉石けんなどの共同購入を始めました。数多くの情報を得るため、自分たちの足で歩き、学び、試行錯誤を繰り返しながら、活動の基盤を作り上げてきました。

そのころからすでに仲間たちの間で、物を大切にしようと、スキューエアやベビー用品など、不用になったものを譲り合っていたそうです。それを市民の方にも広げていきたいという思いから、行政の協力を得て、昭和58年2月、『不用品活用リサイクル情報センター』を開設しました。今回、取材に協力していただいた会長の磯野富美子さん、副会長の新山邦子さん、松本君子さんの3人を中心に

現在、45人の会員が活動しています。

『下館消費者友の会』では、毎週月曜日と水曜日の午前9時30分から正午まで、『不用品活用リサイクル情報センター』

(市役所庁舎東側 市消費生活センター内 TEL24-2111内線292)で、リサイクルの受け付けを行っています。

利用希望者は、情報センターへ電話し、譲りたい物とその値段、または譲ってほしい物を登録します。そして、『下館消費者友の会』の方が仲介役となつて、譲りたい方と譲ってほしい方との間で交渉が成立するようになっていきます。

譲りたい物と譲ってほしい物の情報は、毎月発行の『広報筑西ビーブル』に、リサイクル情報として掲載されています。広報紙が発行される月初めには、問い合わせや申し込みの電話が非常に多くなるそうです。そのため、引越などなどで多数の不用品がある場合は、早めに登録してほしいとのことでした。

利用者から感謝の嬉しい声

昨年度の不用品活用の成立件数は121件。利用件数は年々増加しています。3月に合併し、筑西市となつてからは、旧下館市以外の人からの電話も多くなり、リサイクル活動の輪はますます広がっているようです。

情報センターに登録される不用品は、パソコンやテーブル、制服からふとん乾燥機まで様々です。その中で最も多いのが、使用期間が比較的短い、ベビーベッドやチャイルドシートなどのベビー用品です。愛着を持って使用された品が多いので状態も良く、一度譲ってもらった方が、また登録して次の方に譲り、3回リサイクルしたこともあったそうです。

利用した方からは、「譲っていただいたジュニアシートを、孫が大変気に入って使っています。利用して本当に良かったです」「貴重なステレオを譲っていただき、ありがとうございます。今も私の部屋で素敵な音を出しております」などと、感謝の嬉しい声も届いています。「私一人の力では、ここまでやってられませんでした。会員の皆さんの理解と協力があったから、そしてリサイクルに協力してくださる市民の皆さんがいるからだと思っています。これまでの活動に加え、今後は、皆さんから預かった品物

をフリーマーケットで売るなど、活動の場を広げていきたいですね」と笑顔で語ってくださった磯野会長さん。そこには、並々ならぬ陰での「苦労があったことが伝わってきました」。

10数年前前から時代の流れを見据え、警鐘を鳴らしてこられた『下館消費者友の会』の活動の素晴らしさと、「私たちは、捨てしまえばただのゴミとなつてしまう物を利用できるように、お手伝いをしているだけですよ」とおっしゃった3人の謙虚な言葉に、ただただ頭の下がる思いでした。

取材中に拝見させていただいたベビーバスなども新品同様で、大切に使用されていたことが伺われ、驚きました。使い捨てが定着してしまったように思える現代社会ですが、常に『リサイクル』を念頭に物を使用している方が増えていることを、改めて感じました。

皆さんも家庭で不用品があれば、『不用品活用リサイクル情報センター』を利用されてはいかがでしょうかでしょうか。お金さえ出せば新しいものがすぐ手に入る時代だからこそ、物を大切に使う『リサイクル』について考える良い機会となることでしょう。

引越してしまう人などから提供された、ベビーバスやジュニアシート。とてもきれいな状態で、まだまだ使えるものばかり。物を大切にする人がたくさんいる証拠ですね。

■このコーナーを担当したのは

ひろせ すみこ
廣瀬 住子さん（玉戸）

